

ふじさわ子育て支援連絡会

H24.5.15 第2回交流会 10:00~12:00 藤沢市労働会館

参加者：17名

～交流会議事録～

■ 前半：団体発表 10:00～

前半は、連絡会会員の3団体に活動発表をお願いしました。
発表順に掲載。



【こぼと文庫：陰山さん】

藤が岡市民の家が活動拠点

始まり：昭和42,3年～、藤沢団地のお母さん方が、読書が出来る環境を創る為に実施。寄付された本を貸出したり、小学生対象にお話会をしていた。

平成14年～対象を未就園児親子に。

日時：月1回（第三金曜日10:30～12:00）

30分程度をお話会、その他の時間は雑談、子供の遊び場に。

対象：0～3歳位まで

周知方法：メッセ冊子掲載、藤が岡つどいの広場と村岡公民館にチラシ設置

流れ：始めの歌～終わりの歌で締め。絵本は10冊程度用意した本の中から3冊選んでお話会をする。3冊のうち2冊はこどもたち用、1冊は会に来られた親のために本を読む（啓発や学び、リラックスを目的として）。

特色：登録、予約、費用は不要。イメージは屋根のある公園。構えずに参加できる場所でありたい。こちらも構えないようにしている。絵本を季節に合わせて選んでおくが、他の読み手協力者がきたら、その本をお願いするだけで、事前に打ち合わせはしないようにしている。本当はしたほうが良いと思うが時間的に負担になるので省いている。

また当日の子どもの様子にあわせ、本を選ぶ。スタッフが負担のない回数として月1回。お母さんがリラックスすると子どももリラックスするので、それを大事にしている。

連絡会への参加意義：他の団体と関わることで、自分一人で抱えなくて良いんだという安心感が持てた。肩の荷が下りた。

質問：

①図書館等で行われている話し会とどう棲み分けしているのか？

A：他の所に参加した事がないので、ハッキリとした事は分からないが、他のお話会とは開催場所・時間が異なるので、競合する程の影響は感じられない。

競合しているという点では、活動場所が近い藤が岡つどいの広場があるが、開催日が異なるのでそちらとの棲み分けは今のところできていると思う。

②他の団体への出張読み聞かせは、考えとしてあるのか？

A：日程が合えば行すが、無理のない範囲で行っていきたい。

③藤が岡にあるのは藤が岡在住の人が対象だからか？

A：蔵書を藤が岡市民の家に置いていたため、そこで始まった。

かつては循環バスも走っていないで駅も店も図書館へも遠く不便だった。それでそこ（藤が岡）で始めた。ただ藤が岡住民限定ではない。月1、2組～多いときは10組が来る。

多いといいかという、親子で20人だと一人一人とゆっくり話せなくてかえって申し訳ない。

【子育てひろば タンポポ：川口さん】

活動拠点：長後

始まり：平成14年に立ち上がる。「長後ふれあいネット」（ボランティア連絡会）に参加していた私達のグループ（子育てボランティア とまとグループ）が母体となった。

背景として、当時、虐待が大きな問題になっていた事があり

「これはなんとかしないといけない。それらを無くせる様な子育て環境を創りたい」という一心から始めました。

家庭、学校、地域の3者連携（長後共育フォーラム）がこの企画に協力（場所、補助金等）してくれました。

最初に長後市民センターで開始。

3年目に「老人いこいの家」。

その後「わんぱく城」で3カ所目が開所しました。

スタッフ：25名（フォーラムから15名、自団体10名）でスタート。

費用：スタッフは会費1000円（ボランティア保険代含む）

会場：各会場ごとの予定表を作成し、センターに設置

参加者：常時20組程度が参加。年1500人来所。

特色：イベントを季節ごとに開催。スタッフは全てボランティア（無報酬）で、交通費もお支払いできないが、そこは皆さんのお気持ちでやっています。

報酬はお金でなく心、精神的な報酬を大切にしています。ボランティアだからこそ続けられたと思っています。

子育て相談や友人作りなど どんな悩みも相談にのります。

子育て中の母親たちは「友だちができた」「親にあったような気がする」と私たちに言ってくれます。私たちのところに来て、お友達になった母親たちがケータイで連絡を取り合っているのを見ると良かったなと思います。

「ひろば」で使うおもちゃや絵本は、不要になったものを持ち寄ってきてもらって使っています。

今は市から7万円助成が出るようになって、それは、絵本の購入などに充てています。

今は、特に宣伝をしなくても地域で有名になってきたので、大勢の方が来てくれるようになりました。

スタッフの研修を年に数回実施。市から派遣された専門家のお話を聞いたりしています。

会報（タンポポ通信／年1回）

◆質問

①会報はどなたが作成していますか？

私たちスタッフで作成しています。

②スタッフの年齢は？

年配のスタッフが多い。若い人のスタッフは来て欲しいですが、少ないです。

【からふる♡ふれんど：飯田さん】

活動拠点：県立総合療育相談センター裏にある社協のふれあいセンターや南保健センターに協力を頂き活動。今後は、色んな職種の方がいる保育ボランティア団体「まほうの手」の活動内で「からふる♡ふれんど」も一緒にサロンを実施します。

始まり：1350グラムで出産した娘がいる。出産前からたまたま障がいを持つ子へのボランティアをしていたので、ボランティア先の障がいを持つ子の母親たちにとっても助けられた。

平成14年頃から、児童相談所のスタッフから「『障がいを持つ0歳児からの小さな子を持つ親を支援する会』が藤沢にはない。もし気持ちがあればつくってもらえないか。」と個人的にお願いされる。

平成18年（平成19年立ち上げ）これまでの関わりや経験から、自分を支えてくれた障がいをもつ子の親たちに、地域に、恩返ししていけないか、また、これまで行政、制度に振り回された経験等を、次の世代の親子にさせたくないという思いがあり立ち上げた。当事者にしかわからない思いがある。親の思いを支援者にも地域にも知ってほしい。

個人的には障がい・病気を持つ児童の放課後のデイサービスのスタッフもしている。学校が終わってから自宅へ車で送り届けるまで。

目的：病気・障がいを持つ子の親が交流して情報を交換できること。またそういった親子が地域にいる事を理解して欲しく、活動を展開している。

会場・日時：

第2日曜日 10:00～15:00 情報サロン

亀井野保育園（六会市民センター近く）保育ボランティア「まほうの手」活動中。

第4月曜日 10:30～12:00 「話そう会」

社協ふれあいセンター3階会議室（昼）

費用：無料（会費もなし）。会員制にすると行きたいのに行かれないことが親のストレスになることもある。気楽にいかれる場をほしい。

特色：障がいを持つ子がいる当事者として、同じ様な環境にある親子と接していきたい。

月1回の集いにも子どもの体調で行かれないことが多々ある。

電話やメール、必要に応じて希望があれば、夜間でも自宅へうかがい、親子のお話を聴きに訪問している。

活動を増やしていきたい。障がいを持つ子、持たない子もいっしょにやっけていられる藤沢になってほしい。そのためのコーディネートもしたい。

質問：

①会の周知の仕方は？

子育て支援課や発達相談室、障がい福祉課等に協力をしてもらい、役所のパンフレット置き場に置かせてもらっている。

②メッセにも障がいをお持ちの方は来られているのですか？

来られています。メッセの団体説明会の時に必要な情報（例：バギーのまま入場させてほしいこと）を事前にお伝えし、車椅子・バギーが通れる通路の幅や、親子が必要な物品を保持したまま（酸素吸入器、その他備品）会場へ入れる様な配慮をもらっている。

③児童デイサービスは身体面の障がいをお持ちの方ですか？

私の関わっている事業所は、個人差はあるが、肢体不自由児が主な対象で、それぞれ医療的な支援を必要としている子もいるので、他の施設で受け入れが難しい（症状によって）知的障害の児童の受け入れもしている。

■後半：グループ交流 11:00～

※後半は、3グループに分かれて意見交換、交流を行いました。
各グループに分かれた役員がそれぞれのメモ、記憶に基づいて記録しました。
間違い等ありましたらお知らせください。

◆Aグループ（グループ担当 役員 榊原）：

◎活動にあたって、どのように知らせているか。

- ・長後市民センターに年間活動表(A4 チラシ)を置かせてもらっている。
 - ・引っ越してきた方々がまず市民センターでチラシを手にとってもらおうよう、地域課におねがいしている。
 - ・年間行事予定は前年の12月にたてておく。→地域課が優先的に市民センターや老人センターの部屋予約をおさえてくれる。
 - ・年間予定表をあらかじめ出すことで、スタッフの配置、スタッフにも開催日知らせることができる。
 - ・3か所で活動している(子供の家・老人いこいのいえ・市民センター)が、スタッフは各場所で固定化しておく。
 - ・活動にあたって『共育フォーラム』から支援(お金・人)をしてもらっていて、スタッフのメンバー(約50代以上の方々)が連携をもってしている。打ち合わせには別活動日をもうけてはいない。
- 『共育フォーラム』：長後地域独特の連携組織。青少協、地域、学校の元関係者が集まり構成されている。

<スタッフの質の向上>

- ・スタッフには、年に1回救命救急の講習をうけてもらう。市役所支援課から保育士さんを講師に迎えて、遊び方や子供とのかかわり方研修を開催している。
- ・スタッフに責任感をもってもらう。・スタッフ用連絡網がある。
- ・スタッフ『規約』がある(広場に参加する保護者向けの規約もある)。
- ・スタッフには市民活動ボランティア保険に1000円(1年単位)で入ってもらう。

<広場の内容>

- 1時間半、最後に童謡をうたう。折り紙メダルをお誕生日の子にあげる。
- 最初に広場にみえたお母さんは、みんなに紹介をして、場に入れるようにする。
- ・参加者名簿には、住所氏名と年代を聞いてもらう→保険をかけているので、けがや事故があったときに対処するため。
- ・市民センターには和室と「たんぼぼ」専用おもちゃが常備されている。『老人いこいの家』は、周辺の眺めがよく広いので子供たちは存分に走り回れる。駐車場がある。『わんぱく城』(こどものいえ)は駐車場がないので、その近所に住んでいる人がおもにくる。
- ・年に2回(七夕会・クリスマス会)イベントを開催。共育フォーラムからお金をもらって、参加者へのお菓子代にあてている。七夕会で使う竹は知り合いから毎年譲ってもらう。

<悩み>

- ・運営にお金がかかる。スタッフの交通費をだしたいが、そうもいかず、今はスタッフのボランティア精神・恩恵に甘えている。
- ・おもちゃ・本20冊で3万円くらいかかっている。おもちゃも工夫して準備している。市民センターにある図書室から借りることもある。

<まとめ>

子育てって『三者連携』(家庭・地域・学校)が必要じゃないでしょうか：学校の先生ばかりのせいにもできないし、地域の見守りは大事です。

◆Bグループ（グループ担当 役員 横川）：

藤沢市せっけん推進協議会 手塚さん

メッセには参加していたが、子育て支援連絡会は今日が初参加だった。参加して良かったと思う。目からウロコなお話も聴けて良かった。自分たちの団体は直接子育てとは関係ないと思っていたが、今日の放射能問題等があり、全く関係のない話してはないと実感している。福島県の桃が今年はさっぱり売れなかったが、それらは桃の缶詰などになって売られている。桃は実に放射能は溜まらず、種に溜まっていくので、直接実には放射能の英影響は出にくい。しかし、種というのは人間でいる次の世代。水俣病も治まっている様で、まだまだ似た様な症状を示す子供がうまれてきているのも事実としてある。ドイツ等は商品に「ドクロマーク」を掲示し、添加物や不純物が含まれている事を購入前に消費者が判断できる様にしている。日本も同様の手法を始めたが、端に小さく記載されているのみで、消費者はほとんど気がつかないのではないかと思う。

生協クラブ湘南ふじさわ commons 田中さん

初参加です。今食べている物が身体をつくるので、安心・安全なものを食べて欲しいと広報活動を行っている。今後は、組合員限定のメルマガなどの作成を考えている。

亀の子ロジ 横川さん

自分が子育ての場に参加し、関係者と活動を共にすることが、周知・宣伝になっていると思います。大切なのはお互いに関心を寄せ合える環境を創り出し、当事者同士がつながって行ける様に広報や実際の活動、企画を心がけています。佐久間さんの言われる mixi 等は、若い世代を中心に利用される方が多いので、ぜひ法人の広報に取り入れたいと思います。

まなびカフェ 佐久間さん

広報や外部への周知は主に mixi を活用。多くの方が利用されていると同時に、多くの団体も活動の告知の場として活用している。

子育てネットふじさわ 大友さん

団体の活動をサポートする側にあり、皆さんから情報を頂ければ紙ベース、ホームページへの掲載などを行います。団体のカレンダーなどの掲載も可能です。

◆Cグループ（グループ担当 役員 土屋、林）：

○「子育てひろば タンポポ」の話を聞いて

- ・三者連携とは、どの様に連携をとれば良いのか？
地域によって違うのか？

- ・三者とは、家庭・学校・地域
各公民館でこの三者が連携して講演会等の事業を行っている。

長後地域のように、長期に渡って子育て支援事業を続けているのは稀で、地域によって活動は違うと思う。

○ボランティアに若い人が欲しい。

○若いメンバーの団体には、地域の組織との関わりや人材が少ない。

○サークル単独の活動には、地域の協力が必要。

どうしたら協力が受けられるかが今後の課題。

○ 団体の告知・宣伝について

- ・ホームページ
- ・チラシ・公民館や公共施設、小児科に置いてもらう。
- ・子育て応援メッセに参加。メッセの冊子に掲載。

- ・地域の子育て応援メッセに参加。 村岡・善行
今年新しく開催されるメッセ・・・長後 6/12(火)・湘南台 9/29(土)

- 「青空自主保育 でんでんむし」の活動について
 - ・3クラス、保育士3人 自主保育
 - 西鎌倉の広町緑地で子どもたちを自然の中で遊ばせている。
- 子育て支援の活動の原点とは？
 - ・お母さんを楽にしてあげたい。
 - ・みんなに幸せになって欲しい。
 - ・0歳児～3歳児の子育ては孤独。誰かのフォロー、手助けが欲しい時期。
 - ・幼稚園前の親子には、組織との関わりが無い。
 - ・子育て支援は、人と人をつなげる。

◆交流会終了後の感想・意見◆

※それぞれ、紙に書いていただきました。ありがとうございました。

●初めて参加させていただきました。正直、色々な団体があること、どこの地域も同じようにお母さんの悩みを聞く場があるんだと知りました。自分がこのような場を経てきたので懐かしくも感じ、これから自分も何らかの形で役に立てたらと思いました。とても勉強になりました。
(善行あいの会・野村さん)

●はじめて参加しましたのでこれからは、また他のグループのお話を聞いて参考にしたいと思えます。若い方が苦勞していらっしゃるので、私では説明が出来ませんでしたから、詳しい人により説明が出来ればと思います。若い人に頑張ってもらいたいので・・・。

●今日の会は気楽に話が出来てよかったです。(タンポポ 川口さん)

●初めて出席させて頂きいろいろお話が聞けて良かったです。皆さんの活動について、もっと詳しく知りたいと思いました。参考になる部分もたくさんありました。次回は別の担当が来る事になると思いますが、またぜひ参加させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。
(青空自主保育でんでんむし・杉田さん)

●交流会の話し合いの場では、「たんぽぽ」さんのお話を伺うことができた。自分たちの活動にも参考になったり、勉強になる事がたくさんあり良かった。考え方なども、グループによってもいろいろあり、自分の知らない活動もたくさんあり新たな発見があった。とても有意義な交流会でした。
(善行あいの会・村上さん)

●連絡会会議に初めて参加しました。各団体のお話は冊子だけでは分からない内容、思いがしっかりと語られていて感動しました。情報交換では、さらにいろいろと新情報を知ることが出来、驚きました。お互いに協力しあえることもあり、今日早速それが実現。6月9日の講演会も宣伝して下さるとか。老若男女がいきいき交流、それが次の世代、生命を育て、守っていただけますよね。
(せっけん推進協議会・手塚さん)

●団体発表について、じっくりお話がきけてより深く理解できたと思えます。活動に対する思いが伝わってきました。発表したことについては、とても緊張した。うまくお伝えできたかどうか分かりませんが、よい機会だったと思えます。ありがとうございました。
(こぼと文庫・蔭山さん)

●実際に活動の細かい部分（スタッフの話を含めて）自分たちの活動に取り入れられそうなところがあり、参考になった。スタッフの質向上にむけての取り組みが参考だ。今後、他の2団体の詳しい交流ができなかったので、また回をあらためた時に聞きたい。

（湘南どんぐりひろば）

●1団体について、普段の活動内容他、スタッフについて等、濃いお話が伺えて充実していました。5分10分でなく、時間を多くとっていることで聞けたお話だと思います。自分たちの活動につなげていけたらと思います。今後、今回たんぼぼ通信を拝見しました。活動内容がリアルに載っており私も欲しいと思いました。各団体が持ち帰れる資料があってもよいなど……。ただ、それをこのためだけに作成するのは、子育て中の今、厳しいかなとも思いました。

（湘南おっばい育児の会・鳥井さん）

●今後、交流会パーティーをしたいです。（亀の子ロッジ・横川さん）

●団体発表会では活動を始めた動機なども知れてとてもよかったです。交流会では少人数で話すことによって、より深くお互いの団体を知れて、また、つながることができて今後、藤沢の子育てにおいて大切なプラットフォームになると思います。母を支援する1団体（支援者たち）を支援し合う支え合う場になっていければステキと思います。名簿について……。住所、TEL、Email、があればと思います。（NPO 法人地域魅力・大友さん）

●他団体の活動内容がわかって、参考になった。イベントを企画しても人が集まらないことがあるが、今後はネットやミクシーで集めることも必要だと思った。連絡網は、名前、TEL、ぐらいあればいいと思う。

（生活クラブ湘南ふじさわコモンズ・田中さん）

●発表をして、障がい児を持つ親や家族への理解を皆さんにより分かってもらうために必要だと思いました。また皆さんも知りたい事なのかなとも感じました。今後も交流を続けたいです。

（からふる♡ふれんど・飯田さん）



◆第2回 交流会 出欠連絡表にあった 記載より

○なかなか出席できずに申し訳ありません。

○活動の内容など、意見の交換とメッセの話を聞きたい。

○お尋ねしたいことがあります。

メッセ冊子について、メッセ時以外の配布方法、状況がわかるようでしたら
おおまかでも構わないので教えて頂けますか？

(例えば、母子手帳の交付時や各種検診時の配布はあるのでしょうか？)

子育て支援課 担当者から>

★市役所 子育て支援課、子育て支援センター、つどいのひろば、市民センター、公民館で
子育て支援団体の情報が欲しいという方へお渡ししております。

特に公民館では、乳幼児家庭教育学級でお渡しするところもあり、
必要な方へ情報が届くようにさせていただいております。

○午前中に短時間で終わらせて欲しいです。

(子連れの方の負担を少なくして欲しい)

連絡会 役員から>

★今年は2ヶ月に1回程度、火曜日を中心に交流会日程を組ませていただいています。

10-12時で交流会を開催していますが、ご都合にあわせ自由に入退室していただいて構いません。

お子さん連れの方も交流会に来て下さっています。

交流会参加は義務ではありませんので、ご負担のない範囲でご参加下さい。

以上です。
最後までお読みくださってありがとうございました！